音楽における「日本的なるもの」についての一考察 ——1930 年代の新興作曲家連盟とその周辺——

塚本善也*

要旨

本稿は、1930年代の新興作曲家連盟の活動を中心に起きた「日本的作曲」 論争を取りあげる。

まず連盟はいかなる組織で、どのような音楽をめざしたのか。それから「日本的作曲」論争とは何か、その論争で何が問題となったのか。具体的にこうした課題を検討しながら、音楽において「日本的なるもの」がどう議論されたのかについて一考察を試みること、本稿の主題はこれである。

西洋起源の音楽形式と方法によって「日本」を表現することの困難は、先達山田耕筰の研究と創作の積み重ねが物語る。その山田を乗り越えようとしたのが新興作曲家連盟の若手音楽家たちで、彼らは真に新しい日本的な音楽の創造をめざした。そのためには自らの生活、日本そのものを見つめ直さなければならず、ここから「日本的なるもの」をめぐる議論は出てきた。

当初、音楽学的、思想的に真摯に問われた「日本的作曲」論争は、30年代 半ば以降暴力的な外圧によって偏向させられ、最終的に「日本的なるもの」 をめぐる問いも曖昧なまま消滅してしまった。しかし、「日本的なるもの」は 今なお議論され、思考されており、したがって「日本的作曲」論争を開かれ た問いとして見直す必要がある。

キーワード:「日本的なるもの」、新興作曲家連盟、山田耕筰、「日本的作曲」論争

_

^{*} 中国文化大学日本語文学系助理教授

音樂中關於「日本式曲風」之一考察 ——1930 年代新興作曲家連盟及其周邊——

塚本善也*

摘要

本論文以 1930 年代新興作曲家連盟的活動爲中心發生的「日本的作曲」論 爭爲研究對象。

首先,新興作曲家連盟是什麼樣的組織,又以創作什麼樣的音樂爲目標? 再者,「日本的作曲」論爭的內容爲何,在此論爭中又有何種問題浮現?本論文的目的便是具體檢討這些課題,並且嘗試釐清在音樂中,「日本式曲風」是如何被討論。

山田耕筰的研究及創作成果,述說了要用西洋起源的音樂形式及方法來表現「日本」的困難。想要超越山田的,便是新興作家連盟的年輕音樂家們,而他們嘗試創作新的日本風的音樂。爲此,他們首先必須重新審視自己的生活,以及所謂的日本風;而有關「日本式曲風」的議論也由此產生。

當初,「日本的作曲」論争在音樂學、思想史上都有被真摯地討論,但是自 30年代後半,因爲暴力式的外部壓力而產生方向偏差,最後針對「日本式曲風」 的議題也在曖昧之中不了了之。但是「日本式曲風」至今依然是眾人思考的議 論,因此今後也依然有必要將「日本的作曲」論争看做是開放性問題(open question)來加以探討。

關鍵詞:「日本式曲風」、新興作曲家連盟、山田耕筰、「日本的作曲」論争

_

^{*} 中國文化大學日本語文學系助理教授

One consideration about "a Japanese-style thing" in the music: The New composer society and others in the 1930's

Tsukamoto, Zenya*

Abstract

This paper takes up the "Japanese-style composition" argument that happened mainly on the activity of the New composer society of the 1930s.

What kind of organization was the New composer society? What kind of music did that society aim at? Then what was the "Japanese-style composition" argument? And how was "a Japanese-style thing" discussed in music?

It is so difficult to express "a Japanese-style thing" by the European music form and method. The New composer society aimed at the creation of the true new Japanese-style music. For that end they had to reflect their own life and Japan itself, and the "Japanese-style composition" argument came out of here.

After the mid-30s under the political pressure even the "Japanese-style thing" argument was forced to fade out. However, "a Japanese-style thing" is still discussed and is considered, and therefore it is necessary to review the "Japanese-style composition" argument as an open problem.

Keywords: "a Japanese-style thing", the New composer society, Kosaku Yamada, the "Japanese-style composition" argument

^{*} Assistant Professor of the Department of Japanese Language and Literature, Chinese Culture University